

農業農村整備事業等事後評価地区別結果書

局名	中国四国農政局
----	---------

都道府県名	島根県	関係市町村名	出雲市
事業名	農業競争力強化基盤整備事業 (農地整備事業)	地区名	みだみ美談
事業主体名	島根県	事業完了年度	平成 26 年度

〔事業内容〕  
事業目的： 本地区は、出雲市の北東部に位置し、北山山脈と斐伊川に囲まれた平坦な農地が広がる水稲主体の単作農業地帯である。  
しかし、地区内のほ場は小区画不整形かつ排水不良であり、また農道幅員は狭く、用水路も未整備のため、営農に支障が生じ農業経営は不安定な状況にあった。このため、本事業によりほ場の大区画化と農道、用排水路の整備を行い、農業生産性の向上を図るとともに担い手への農地集積を促進し、地域の農業構造の改善等に資する。

受益面積： 64ha  
 受益者数： 140 人  
 主要工事： 用水路 8.6km、排水路 8.9km、区画整理 64ha、農道 7.3km、暗渠排水 59ha、揚水機場 1 箇所  
 総事業費： 1,453 百万円  
 工期： 平成 20 年度～平成 26 年度（計画変更：平成 24 年度）  
 関連事業： 国営農業用水再編対策事業 斐伊川沿岸地区

〔項目〕  
 1 社会経済情勢の変化  
 (1) 社会情勢の変化  
 本地域の総人口について、平成 17 年と平成 27 年を比較すると 1%減少している。

【人口、世帯数】

区分	平成 17 年	平成 27 年	増減率
総人口	173,751 人	171,938 人	▲ 1%
総世帯数	54,586 戸	60,130 戸	10%

(出典：国勢調査)

産業別就業人口については、第 1 次産業の割合が平成 17 年の 8.9%から平成 27 年の 6.4%に減少し、第 3 次産業は増加している。

【産業別就業人口】

	平成 17 年		平成 27 年	
		割合		割合
第 1 次産業	7,760 人	8.9%	5,421 人	6.4%
第 2 次産業	24,627 人	28.2%	22,962 人	27.3%
第 3 次産業	54,945 人	62.9%	55,898 人	66.3%

(出典：国勢調査)

(2) 地域農業の動向

平成 17 年と平成 27 年を比較すると、耕地面積については 32%、農家戸数は 43%、農業就業人口は 45%減少しており、65 歳以上の農業就業人口についても 40%減少している。

一方、農家 1 戸当たりの経営面積は 20%、認定農業者数は 1%増加している。

区分	平成 17 年	平成 27 年	増減率
耕地面積	5,991ha	4,086ha	△32%
農家戸数	6,216 戸	3,553 戸	△43%
農業就業人口	9,233 人	5,116 人	△45%
うち 65 歳以上	6,338 人	3,792 人	△40%
戸当たり経営面積	0.96ha/戸	1.15ha/戸	20%
認定農業者数	378 人	382 人	1%

(出典：農林業センサス、認定農業者数は H29.3 島根県調べ)

2 事業により整備された施設の管理状況

本事業により整備された用水路や農道は、「美談みどりの会（地域住民による協働組織）」により適正に維持管理されており、草刈り、泥上げ等の管理を行っている。

3 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化

(1) 農作物の生産量の変化

J A の指導等により、価格の高い品種の食用米の出荷量を増やす営農計画に変更したことにより、計画を上回る水稻の作付となっている。

また、計画面積に達していないものの、飼料用米と小麦の作付が増加してきている。

【作付面積】

(単位：ha)

区分	事業計画（平成 24 年）		評価時点 (令和元年)
	現況 (平成 22 年)	計画	
水稻	55.0	30.6	51.8
飼料用米	—	15.0	2.5
小麦	—	12.8	5.0
大豆	0.5	—	—
ブロッコリー	—	0.5	—

(出典：事業計画書（最終計画）、出雲市聞き取り)

## 【生産量】

(単位：t)

区分	事業計画（平成 24 年）		評価時点 (令和元年)
	現況 (平成 22 年)	計画	
水稲	271	151	233
飼料用米	—	74	17
小麦	—	30	7
大豆	0.6	—	—
ブロッコリー	—	3	—

(出典：事業計画書（最終計画）、出雲市聞き取り)

## 【生産額】

(単位：百万円)

区分	事業計画（平成 24 年）		評価時点 (令和元年)
	現況 (平成 22 年)	計画	
水稲	57	32	48
飼料用米	—	1	1
小麦	—	1	0.1
大豆	0.06	—	—
ブロッコリー	—	1	—

(出典：事業計画書（最終計画）、出雲市聞き取り)

## (2) 営農経費の節減

本事業の実施により、農業用水の安定供給が図られるとともに、排水改良及びほ場の大区画化に伴う大型農業機械導入により計画以上に農作業に係る労働時間等の節減が図られている。

## 【労働時間】

(単位：hr/ha)

区分	事業計画（平成 24 年）		評価時点 (令和元年)
	現況 (平成 22 年)	計画	
水稲	363.2	165.2	118.7
水稲（個人）	363.2	195.9	—
飼料用米	363.2	165.2	118.7
小麦	205.3	33.6	29.8

(出典：事業計画書（最終計画）、出雲市聞き取り)

## 【機械経費】

(単位：千円/ha)

区分	事業計画（平成 24 年）		評価時点 (令和元年)
	現況 (平成 22 年)	計画	
水稲	1,215	241	233
水稲（個人）	1,215	923	—
飼料用米	1,215	241	233

小麦	1,549	261	233
----	-------	-----	-----

(出典：事業計画書(最終計画)、出雲市聞き取り)

#### 4 事業効果の発現状況

##### (1) 事業の目的に関する事項

###### ① 農業生産性の向上

本事業(及び関連事業)の実施による農業用水の安定供給や排水改良により、水稻や大豆の単収が増加するなど、農業生産性の向上が図られている。

小麦の単収は県平均を目指していたが、本地区は地下水位が高いことから、計画に比べて大幅に低くなっている。

###### 【単収】

(単位：kg/10a)

区分	事業計画(平成24年)		評価時点 (令和元年)
	現況 (平成22年)	計画	
水稻	493	522	516
飼料用米	493	522	516
小麦	—	237	146
大豆	117	117	121

(出典：事業計画書(最終計画)、島根県統計年報、島根県聞き取り)

###### ② 維持管理費の節減

用水パイプラインの新設や排水路・道路の改修と併せて、新たにポンプ施設を整備したことにより、事業実施前と比べポンプ施設の維持管理費が1,613千円増加(平成17年：0千円 → 令和元年：1,613千円)している。

なお、受益者である農事組合法人みだみ営農組合への聞き取りでは、「パイプラインの整備により農業用水の安定供給が図られ、必要な時期に十分な農業用水を確保できるようになった。」等の回答を得ている。

##### (2) 土地改良長期計画における施策と目指す成果の確認

###### ① 担い手の体質強化

本事業による農業生産基盤整備に伴い、新たに農事組合法人みだみ営農組合が設立され、本事業で整備した64haは全てのほ場を本法人が管理するなど、担い手への農地集積は計画どおりとなっている。

###### 【担い手の育成状況】

(単位：人、組織)

区分	事業計画(平成24年)		評価時点 (令和元年)
	現況 (平成22年)	計画	
農業生産法人	0	1	1

(出典：出雲市聞き取り)

###### 【担い手の農地集積】

(単位：ha、%)

区分	事業計画(平成24年)		評価時点 (令和元年)
	現況 (平成22年)	計画	

農地集積面積	0	64	64
農地集積率	0	100	100

(出典：出雲市聞き取り)

② 6次産業化の取組と雇用の創出

農事組合法人みだみ営農組合が筆頭株主となって菌床椎茸周年栽培を行う「(株)イ農ベルみだみ」を新たに設立した。この会社では、区画整理事業に伴う換地により新たに創出した非農用地に栽培施設等を建設し、菌床椎茸の生産・販売や椎茸の軸を使った加工品、地区内で生産した餅米を利用したお餅生産を行うなど6次産業化に取り組み、地域の特産品づくりと約20名の雇用の場を創出しており、地域農業の持続的発展に寄与している。

(3) 事業による波及的効果等

① 地域文化の継承

当地域の水田農業は、本事業の実施に併せて設立された農事組合法人みだみ営農組合が一手に引き受けているが、水稻栽培により排出される稲わらを使って、毎年地域住民が寄り合っしめ縄づくりをしており、各戸用のみならず美談神社に奉納されるしめ縄にも使用されるなど、稲わら文化や地域文化の継承に寄与している。

② 地域農業への理解の向上

毎年秋の美談神社の例祭には、神楽の奉納と併せ、みだみ営農組合が栽培した餅米を使った餅まきが行われている。

また、2年に1回、夏に開催される美談自治会主催の「美談ふれあいフェスティバル」にみだみ営農組合も出店し、大鍋特製の豚汁や焼き鳥を振る舞うなど地域住民と交流することで、営農組合の存在意義をアピールし、地域農業への関心や理解向上に努めている。

(4) 事後評価時点における費用対効果分析の結果

総便益 3,153 百万円

総費用 2,453 百万円

総費用総便益比 1.28

(注) 総費用総便益比方式により算定。

5 事業実施による環境の変化

(1) 生活環境

本事業で整備された用水路では、「美談みどりの会」が主体となり、地域住民とともに水路の草刈り・泥あげ、農道の草刈り、水路・農道等の軽微な補修、植栽による景観形成等を行うことにより、地域住民へ用水機能の周知が図られるとともに、生活環境に潤いを与えている。

(2) 自然環境

本事業では、底張りのない既設排水路をあえて残して利用することにより、ドジョウやマコモ等が事業実施前と同様に現在も確認されている。

6 今後の課題等

本事業により、ほ場の大区画化と汎用化を行ったことで大型機械化営農が促進され、大規模農業経営に向けた課題が改善され、本事業を契機に新たに設立された農事組合法人に農地は全て集積されている。

今後は、水稻・小麦・野菜類等を組み合わせた2年3作の作付体系の確立や、地域の特産品開発を目指すことにより、組合員の所得向上や地域の活性化につなげる必要がある。

<p>農事組合法人の作業員が高齢化しており、後継者の育成や利用権設定の更新なども早めに検討をしていく必要がある。</p>	
事後評価結果	<p>本事業の実施により、ほ場の大区画化と汎用化、農業用水が安定供給されるようになったことで、新たに設立された農事組合法人に農地をすべて集積し、大型機械化等による営農経費の節減や耕作放棄地の解消につながっている。</p>
第三者の意見	<p>ほ場の大区画化や用排水施設を整備し、事業を契機に新たに設立された農業法人に全ての農地を集積したことで、営農経費の大幅な節減や耕作放棄地の解消につながるなど、農業生産性は大きく向上が認められる。</p> <p>今後は、農業法人による周年雇用を目指すとともに、継続した営農を見据えた後継者の育成に取り組むことが望まれる。</p> <p>また、創設した非農用地に6次産業化施設を整備したことで、新たに雇用が創出されている。この雇用効果や雇用者による波及的効果など新たに発現している効果についても、今後は評価の対象とされたい。</p>

# 農業競争力強化基盤整備事業 美談地区 概要図

区画整理	
暗渠排水	
用水路	
国道	
県道	
市道	
農道	
河川	
線路	

